

2004 年の東北地方の天候（速報）

- ・年平均気温は 1990 年に次ぐ記録的な高温
- ・年降水量は 5 月や 10 月の記録的な多雨により多い
- ・平成 16 年 7 月新潟・福島豪雨等梅雨末期の集中豪雨
- ・台風の年間発生数は 29 個と平年並だが、年間上陸数は 10 個と最多を記録

本資料は、現時点で得られる資料を取りまとめたものです。気候統計値については、2005 年 1 月 4 日（火）に改めて 12 月 31 日までの統計値を発表します。

1. 2004 年の東北地方の天候の特徴

2004 年の東北地方は、8 月のように低温となる時期もあったが、年を通して寒気の南下は弱く、高温傾向が続いた。特に、11 月は東北各地で記録的な高温となった。このため、東北地方の年平均気温の平年差は +1.1（2004 年 1 月 1 日から 12 月 19 日までの暫定値）と、1946 年の地域平均統計開始以降で 1990 年に次ぐ記録的な高温となる見込みである。また、春や初冬の高温により、桜の開花・満開はかなり早まり、寒候期現象の初日や初冠雪は遅くなった。

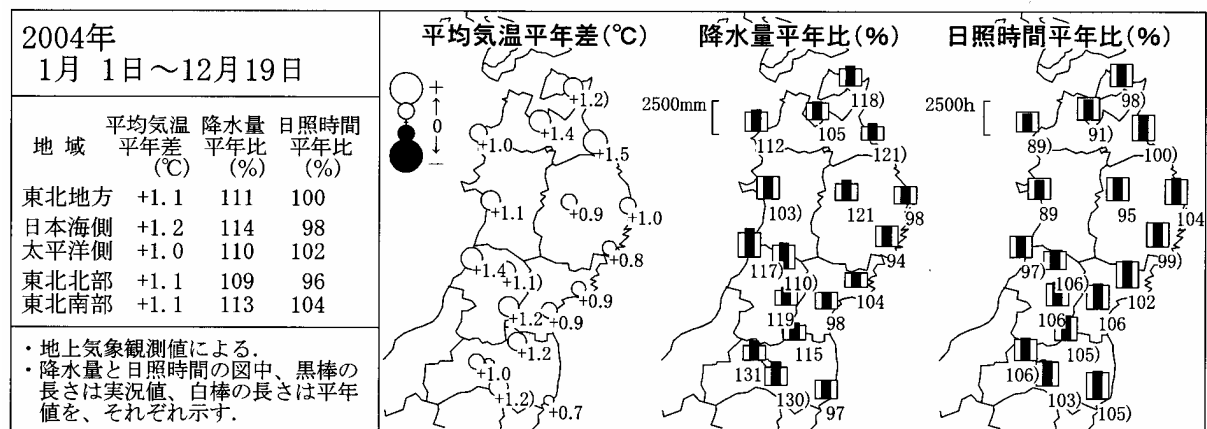
3 月は天気の流れが小さく記録的な少雨となったが、5 月や 10 月は前線や台風の影響で記録的な多雨となり、年降水量は多い見込みである。

また、梅雨時期には全般に不活発だった梅雨前線の活動が梅雨末期の 7 月中旬には活発化し、平成 16 年 7 月新潟・福島豪雨等各地で集中豪雨となり、大きな被害が発生した。

台風の年間発生数の平年は 26.7 個で、今年は 12 月 19 日現在までにほぼ平年並の 29 個発生した。しかし、年間上陸数の平年は 2.6 個だが、今年は台風が日本に接近しやすい気圧配置が続いたため上陸数は 10 個に達し、これまでの記録を大幅に更新した。また、今年は日本周辺の海面水温が平年に比べて高かったため、台風が強い勢力のまま日本に上陸・接近し、日本全国に大雨や暴風による大きな被害をもたらした。

年平均気温は、東北地方で平年差 +1.1 とかなり高い。年降水量は、東北地方で平年比 111% と多い。年間日照時間は、東北北部で平年比 96% と少なく、東北南部は平年比 104% と多い。

なお、値は 2004 年 1 月 1 日から 12 月 19 日までの暫定値です。



年平均気温・降水量・日照時間平年差（比）の分布図

本件に関するお問い合わせ：仙台管区気象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

2 . 2004 年の季節別の東北地方の天候

冬 (2003 年 12 月 ~ 2004 年 2 月): 暖冬・少雪

1 月中旬から 2 月上旬にかけては冬型の気圧配置が続いた。しかし、その他の期間は低気圧が数日の周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となったが長続きしなかった。気温は、1 月は平年並だったが、12 月は寒気の南下が弱く、また 2 月は日本海を通る低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだため高温となった。このため東北地方は暖冬となった。

東北日本海側の降雪量は、1 月中旬から 2 月上旬にかけては平年より多かったが、その他の期間は平年より少なく、冬合計では平年比 78% と少なかった。なお、東北太平洋側の降雪量は平年比 52% とかなり少なかった。

冬平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。冬降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。冬日照時間は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。

春 (3 ~ 5 月): 高温、3 月東北南部の記録的な少雨、5 月記録的な多雨・日照不足、桜の開花・満開はかなり早い

強い寒気の南下は一時的で、移動性高気圧に覆われ晴れて暖かい時期や、日本海の低気圧や前線に向かって暖かい南風が流入する時期もあり、春は高温となった。4 月中旬までは、低気圧や寒気の影響を受けても一時的で天気の崩れは小さく、3 月は東北南部で記録的な少雨となったが、4 月下旬以降は低気圧や前線の影響を受けやすく、5 月は記録的な多雨・日照不足となった。

春平均気温は高い。春降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。春日照時間は少ない。

夏 (6 ~ 8 月): 高温、東北太平洋側の多照、平成 16 年 7 月新潟・福島豪雨等梅雨末期の豪雨、台風が日本に 6 個上陸 (1951 年以降で最多)

梅雨入り後、天気のごずつく時期もあったが、梅雨前線の活動は不活発で晴れて暑い日が多かった。しかし、7 月中旬は梅雨前線が北陸から東北地方に停滞して活発化し、平成 16 年 7 月新潟・福島豪雨等各地で梅雨末期の集中豪雨となり、大きな被害が発生した。梅雨明け後は、太平洋高気圧に覆われ晴れて暑さの厳しい日が続いたが、8 月中旬以降は前線や台風の影響を受けやすく曇りや雨の日が多かった。また、8 月中旬まではオホーツク海高気圧がほとんど出現しなかったこともあり、夏 (6 ~ 8 月) としては高温、東北太平洋側を中心の多照となった。

なお、台風が日本に上陸したのは、6 月に 2 個、7 月に 1 個、8 月に 3 個で 1951 年以降最多となり、東北地方を通過・接近したため暴風や大雨となり、大きな被害が発生した。

夏平均気温は高い。夏降水量は平年並。夏日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。

秋 (9 ~ 11 月): 高温・多雨・寡照、台風が秋に 4 個上陸 (1951 年以降で最多) し、年間上陸数も 10 個と最多を記録

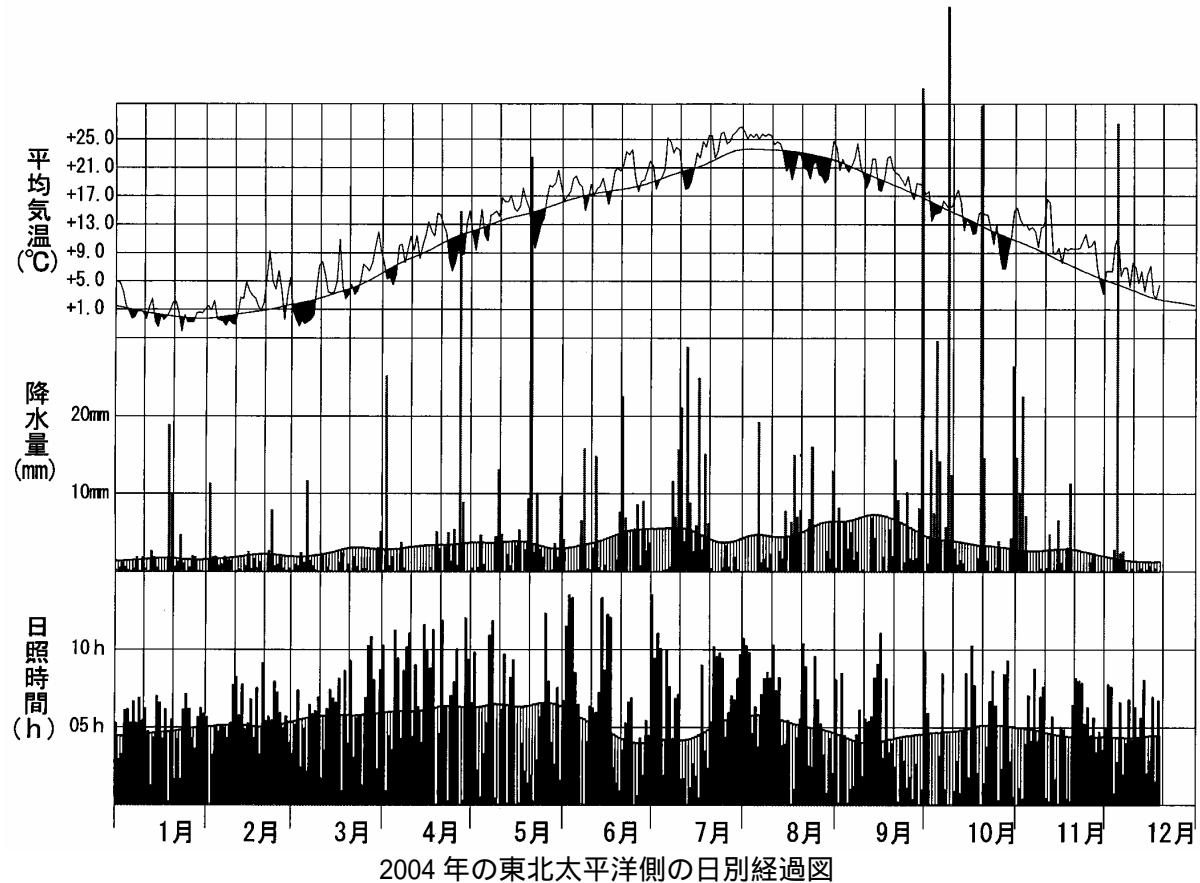
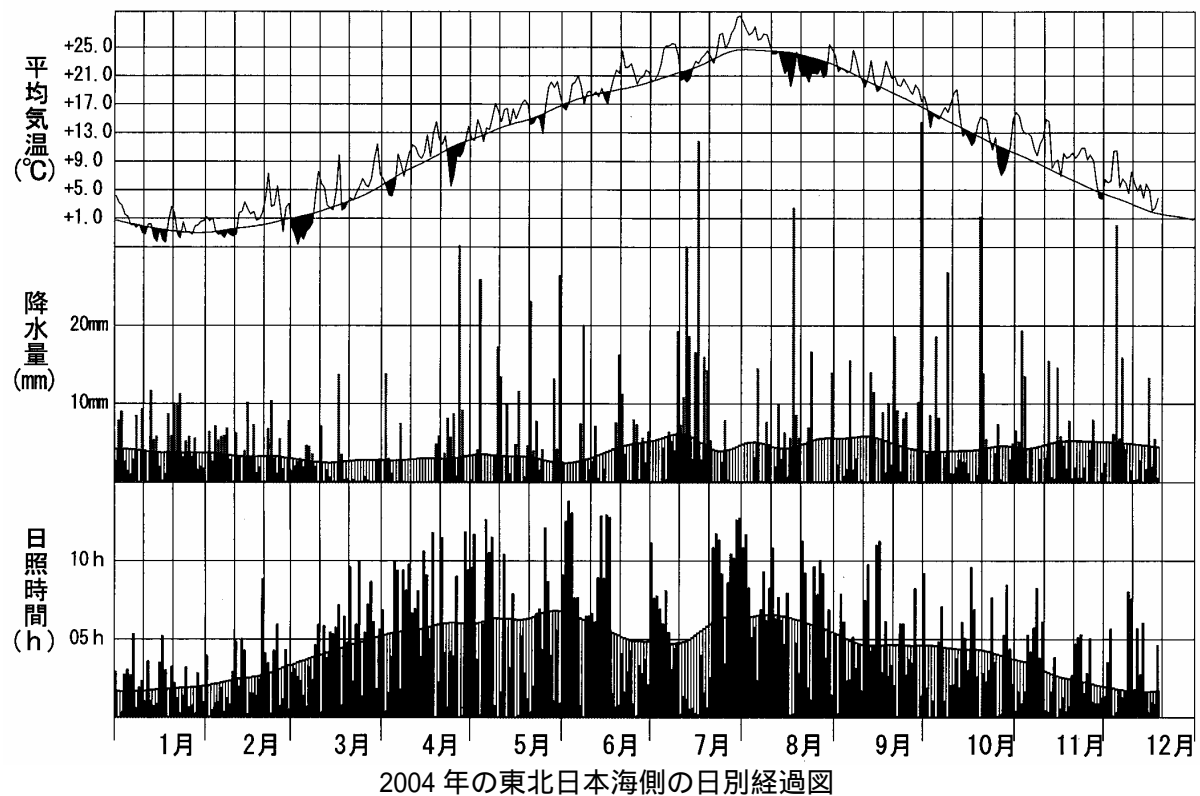
秋を通して寒気の南下は一時的であったため、気温の高い日が多く、秋平均気温はかなり高くなった。特に、11 月は東北各地で記録的な高温となった。

天気は、移動性高気圧に覆われて晴れる時期もあったが、低気圧や前線、さらに相次ぐ台風の影響で曇りや雨の日が多く、多雨・寡照となった。特に、10 月は東北南部で記録的な多雨となった。

また、台風が秋に 4 個上陸 (平年 1 個) し、1951 年以降で 1 位タイの記録となった (1954 年も 4 個上陸)。このため、年間上陸数も 10 個となり、1951 年以降最多を記録した。東北地方でも台風の通過・接近に伴い暴風や大雨となり、大きな被害が発生した。

秋平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。秋降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側でかなり多い。秋日照時間は東北北部でかなり少なく、東北南部で少ない。

3 . 2004 年の東北地方の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実践と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）

4．各月の東北地方の天候

1月：月平均気温は平年並だが、上旬は高温

上旬は、強い寒気の南下は一時的で長続きせず、気温は高かった。しかし、中旬以降は、強い寒気が南下して冬型の気圧配置が強まり、荒れた天気となる時期があった。このため、中・下旬の気温は平年並だった。

月平均気温は平年並。月降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北北部で平年並、東北南部で多い。月降雪量は平年並(平年比 93%)。

2月：高温、23日の強い冬型の気圧配置による暴風

上旬は冬型の気圧配置が続き、気温は平年並だった。しかし、中旬以降は低気圧が数日の周期で東北地方を通過し通過後は冬型の気圧配置となったが長続きしなかった。また、低気圧が日本海を通過することが多く、低気圧に向かって暖かい空気が流れこんだため、高温となった。なお、15～16日や23日には冬型の気圧配置が一時的に強まって、暴風等による被害が発生した。

月平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。月降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。月降雪量は東北日本海側で少なく(平年比 67%)、東北太平洋側でかなり少ない(平年比 30%)。

3月：上旬の低温、中・下旬の高温、東北南部の記録的な少雨

上旬は低気圧が短い周期で通過し、通過後は冬型の気圧配置となった。大陸から強い寒気が入って気温が低く、東北太平洋側の北部は記録的な大雪となる日もあった。上旬末以降は、前線や気圧の谷が数日の周期で通過したが、高気圧に覆われて晴れる日が多く、また暖かい南風が吹き込み、高温となった。

なお、天気の大きな崩れはなく、東北南部では記録的な少雨となった。

月平均気温は高い。月降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。月間日照時間は平年並。

4月：気温の変動が大きい、上旬や下旬に雪、桜の開花・満開はかなり早い

低気圧が数日の周期で通過し、上旬や下旬は低気圧の通過後に強い寒気が南下して東北北部で雪となる所があった。しかし、中旬を中心に高気圧に覆われ晴れて暖かい時期もあり、気温の変動が大きかった。

なお、桜の開花は仙台で早かった他はかなり早く、満開は小名浜で早かった他はかなり早かった。

月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で高い。月降水量は東北日本海側で多く、東北太平洋側で平年並。月間日照時間は東北北部で平年並、東北南部で多い。

5月：記録的な多雨・日照不足、高温

上旬、天気は数日の周期で変化した。しかし、中・下旬は低気圧や前線の影響を受けやすく、梅雨のはしりとなって記録的な多雨・日照不足となった。また、寒気や冷たく湿った東よりの風の影響で低温となる時期もあったが、太平洋高気圧の勢力が強く、日本海の低気圧や前線に向かって暖かい南風が流入し高温となった。

月平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。月降水量は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。月間日照時間はかなり少ない。

6月：高温、東北太平洋側の多照、台風第4号、台風第6号の日本への上陸

梅雨入り後、天気のぐずつく時期もあったが、梅雨前線の活動は不活発で、中旬にかけては高気圧に覆われて晴れる日が多かった。また、台風の北上や南から暖かい空気が流れ込んだため、6月は高温となった。一方、オホーツク海高気圧はほとんど現れず、東北太平洋側は多照となった。太平洋高気圧は、平年に比べて北への張り出しが強く、西への張り出しは弱かった。このため、台風は太平洋高気圧の縁に沿って進み、台風第4号と第6号が四国へ上陸した。

月平均気温は高い。月降水量は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

7月：12～13日の平成16年7月新潟・福島豪雨、高温

中旬は、梅雨前線が北陸から東北地方に停滞し、曇りや雨の日が続いた。特に、12～13日の平成16年7月新潟・福島豪雨等各地で梅雨末期の集中豪雨となり、大きな被害が発生した。しかし、上・下旬は高気圧に覆われ概ね晴れて暑い日が続いたため、東北地方は高温となった。また、下旬の中頃は大気の状態が不安定となって各地で雷雨となり、落雷等により被害が発生した。

月平均気温は東北日本海側でかなり高く、東北太平洋側で高い。月降水量は東北北部で平年並、東北南部で多い。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側でかなり多い。

8月：台風第11号から変わった熱帯低気圧、台風第15号と第16号の上陸・接近、上旬の高温、中・下旬の低温

台風第11号から変わった熱帯低気圧が5～6日に東北北部を通過し、台風第15号は20日に青森県を横断、台風第16号は30～31日に東北地方に接近したため、各地で暴風や大雨により大きな被害が発生した。なお、上旬は太平洋高気圧に覆われ晴れて暑い日が多かったが、中旬以降は前線や台風、オホーツク海高気圧の影響で曇りや雨の日が多く低温となった。

月平均気温は東北北部で平年並、東北南部で低い。月降水量は平年並。月間日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で多い。

9月：高温、台風第18号の接近、第21号の通過

中旬は高気圧に覆われ晴れて暖かい日が多かったが、上・下旬は東北地方に前線が停滞しやすく曇りや雨の日が多かった。また、下旬は南から暖かく湿った空気が入り込んだため気温は高く経過した。

7～8日は台風第18号が東北地方に接近し、29～30日には台風第21号が東北地方を横断したため各地で大雨や暴風となって、土砂崩れや農作物等への被害が発生した。

月平均気温は高い。月降水量は東北北部で多く、東北南部で少ない。月間日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。

10月：東北南部で記録的な多雨、台風第22号と第23号の相次ぐ上陸、年間上陸数は最多

前半は、高気圧に覆われ晴れる日もあったが、本州南岸に停滞した前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。後半は、寒冷前線や低気圧が数日の周期で通過し、下旬には通過後冬型の気圧配置となって一時寒気が南下した。

特に、9日と20～21日は台風第22号と第23号が相次いで日本に上陸し、東北地方に接近したため、東北南部を中心に大雨となり、交通機関の運休や農作物等に被害が発生した。

月平均気温は東北日本海側で高く、東北太平洋側で平年並。月降水量は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。月間日照時間はかなり少ない。

11月：東北各地で記録的な高温、27日の記録的な暴風

気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は一時冬型の気圧配置となった。しかし、月初めや中旬は気圧の谷や前線の影響を受け易く、天気のごくつく時期があった。

南から暖かい空気が流れ込み易く、強い寒気も南下しなかったため、東北各地で記録的な高温となった。また、27日には発達した低気圧の影響で冬型の気圧配置が一時的に強まり、各地で記録的な暴風となった。

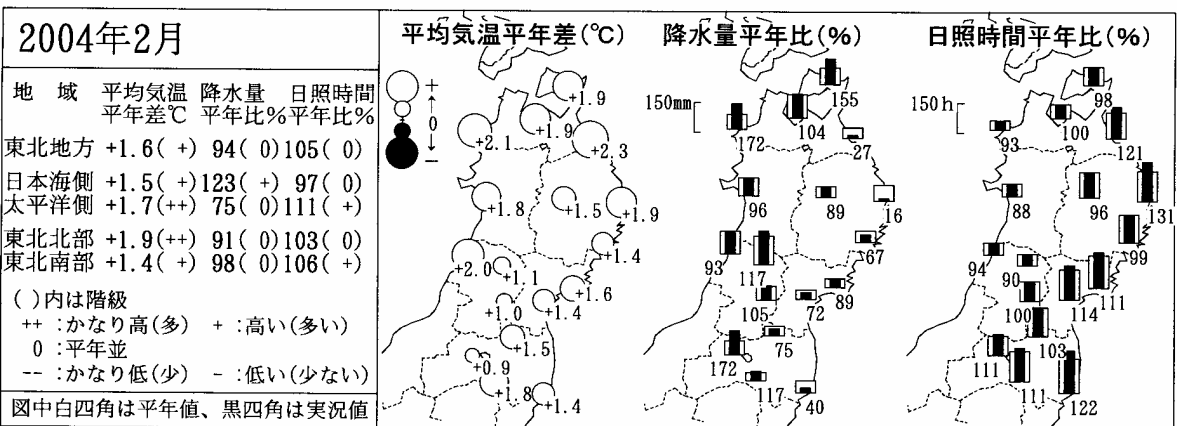
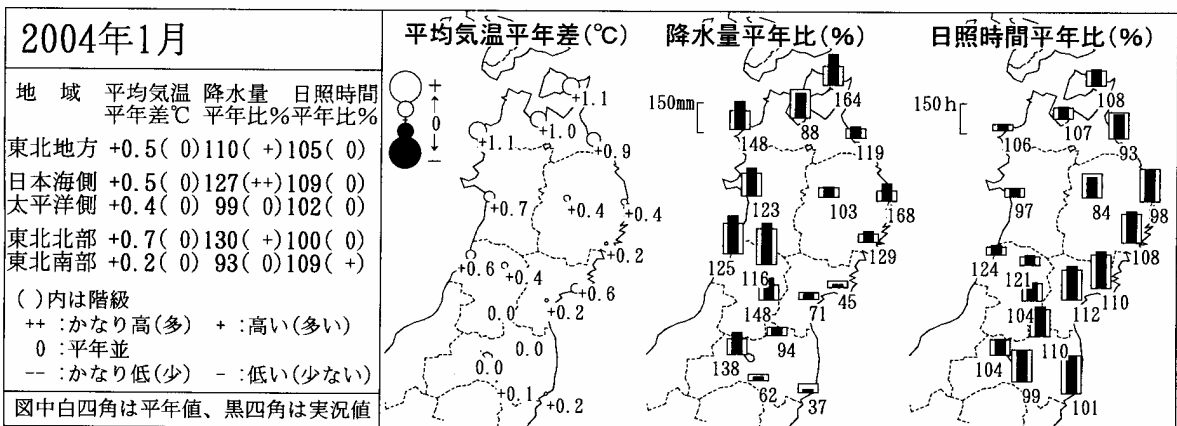
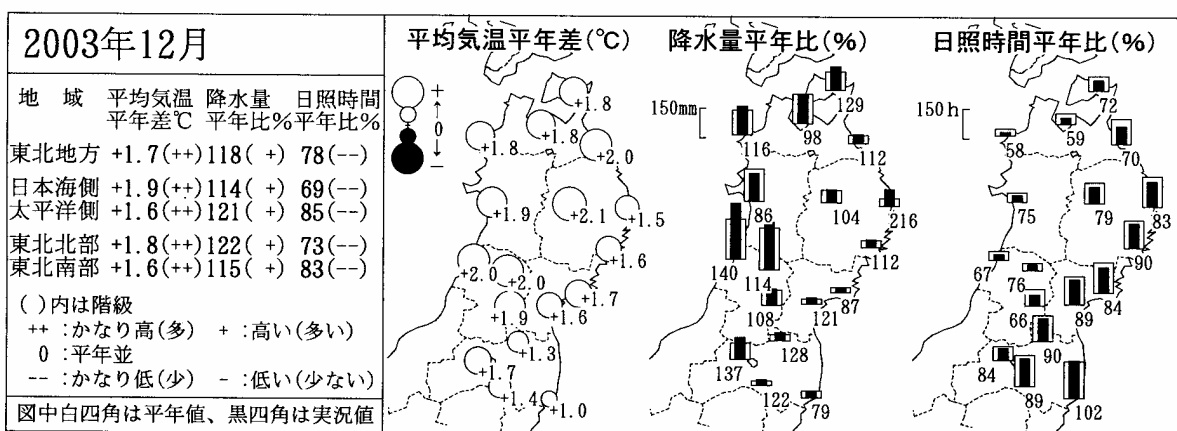
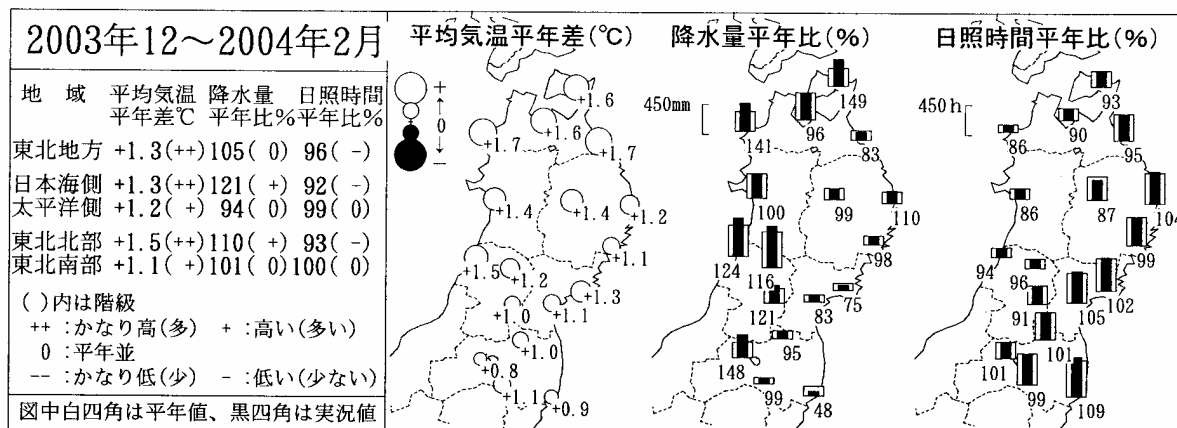
月平均気温は東北地方でかなり高い。月降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で多い。月間日照時間は東北北部で少なく、東北南部で平年並。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については5ページ目脚注を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。

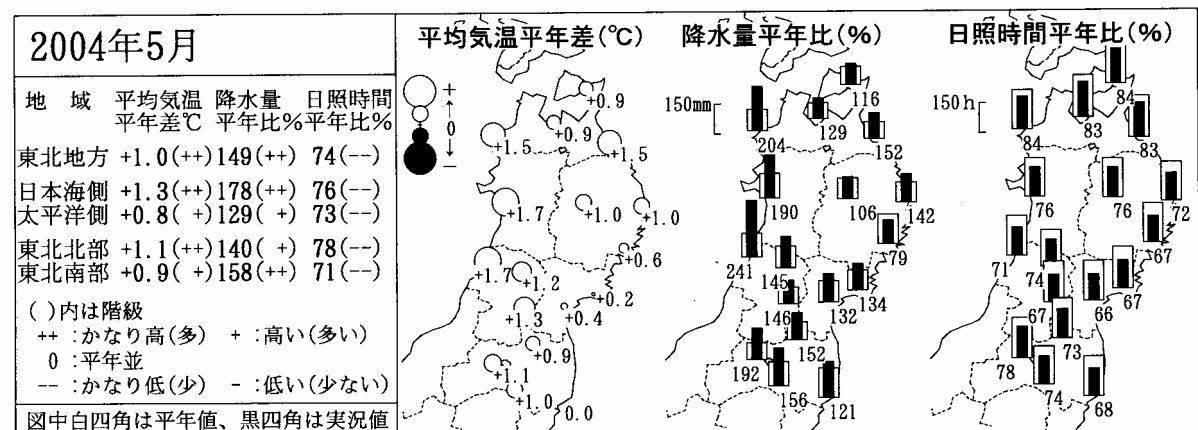
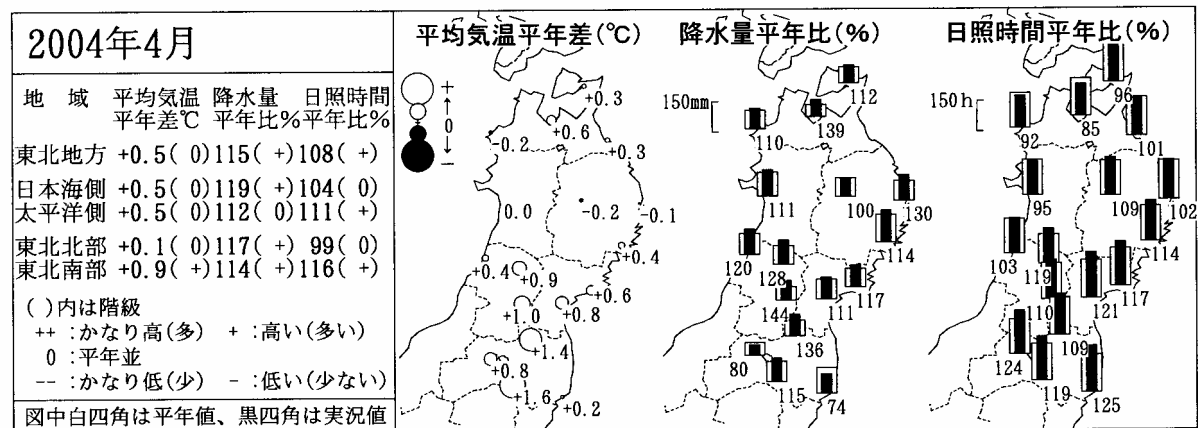
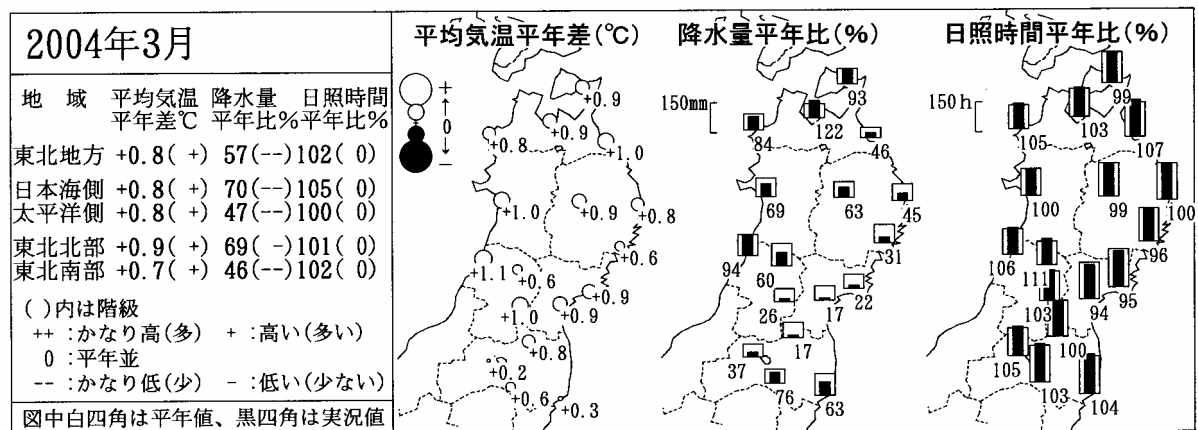
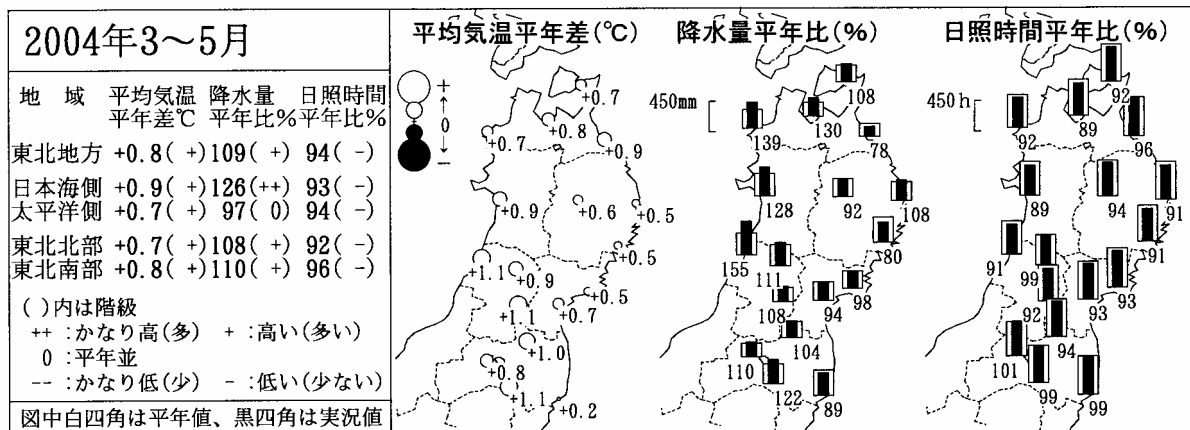
階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3階級とし、それぞれの階級幅は、1971～2000年の30年間において出現した値を等確率(33.3%)に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率10%の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

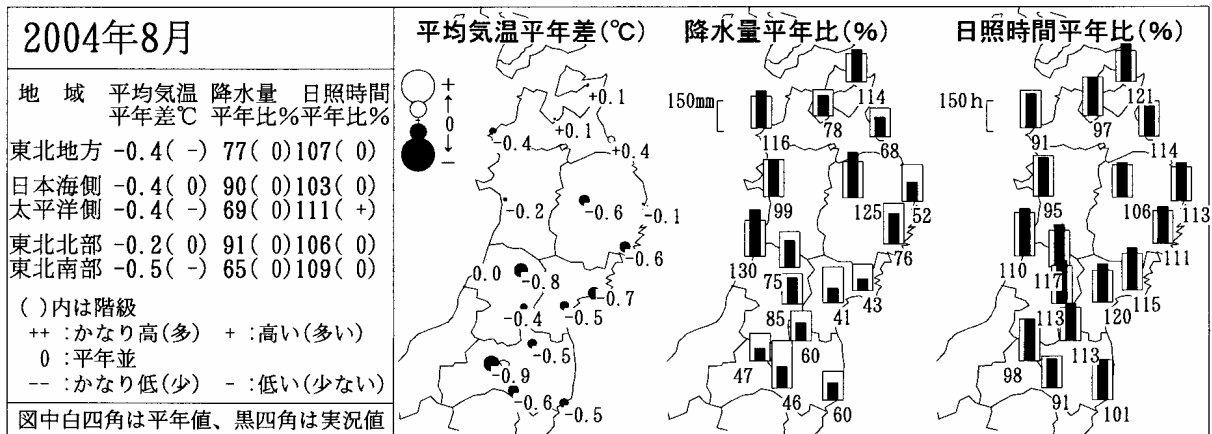
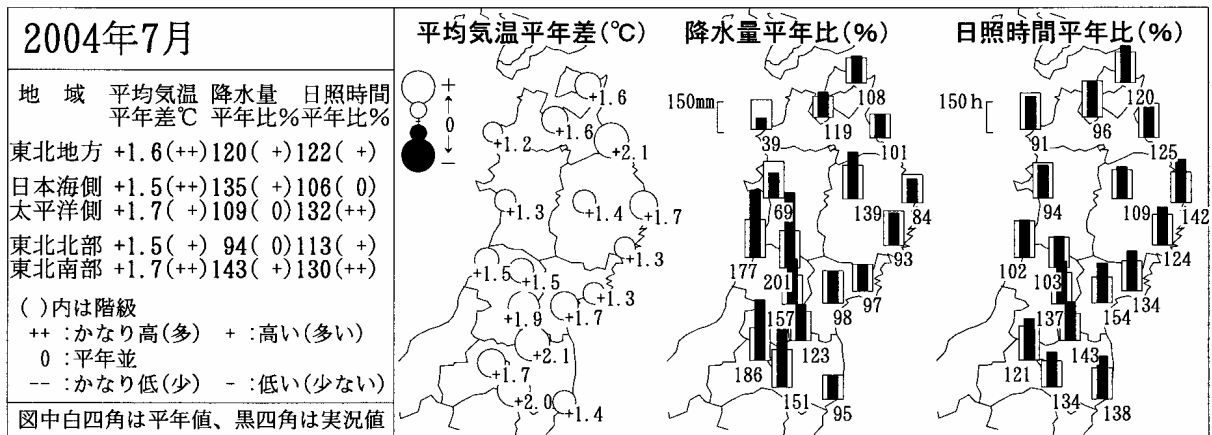
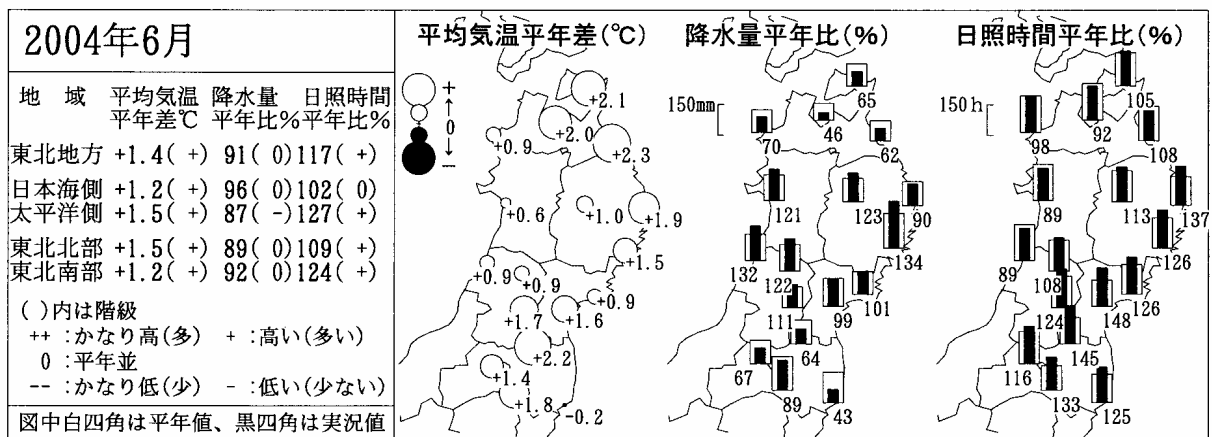
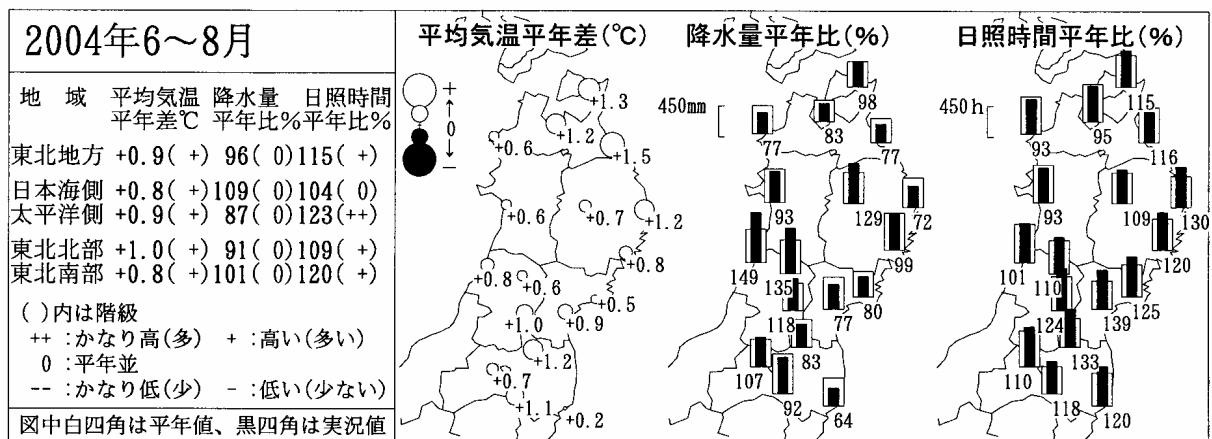
5. 2004年の季節・月平均（合計）値の平年差（比）

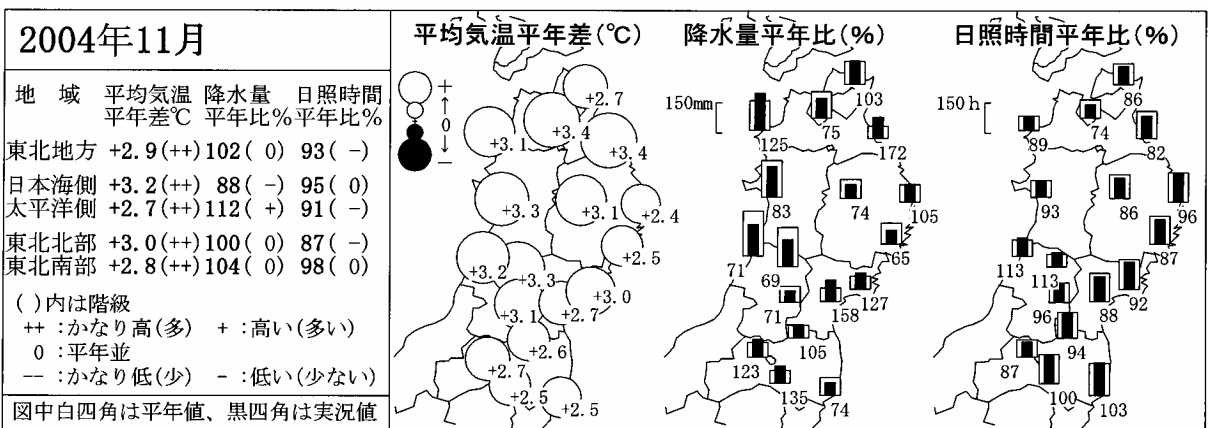
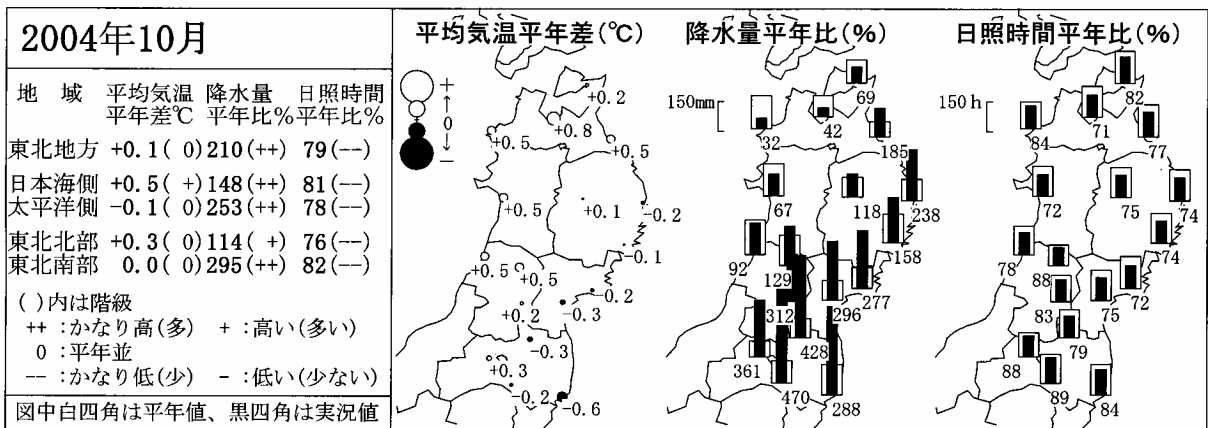
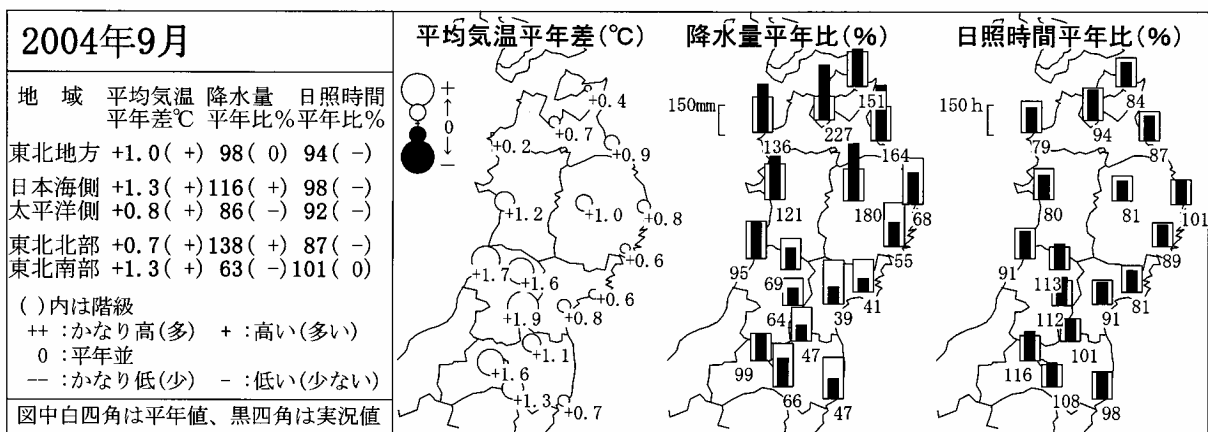
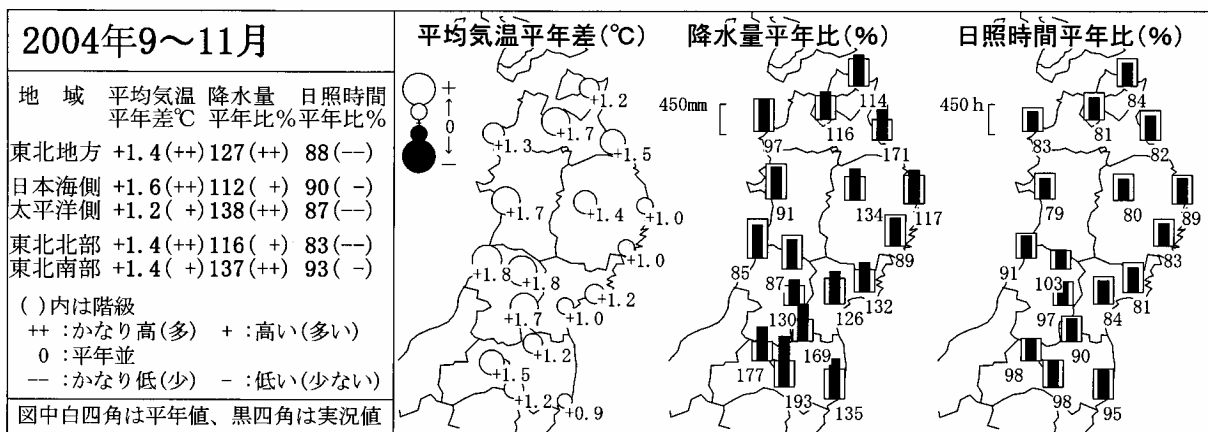


注) 東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津
 東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県
 東北南部：宮城県、山形県、福島県







6 . 季節の極値・順位更新

(季節平均気温、季節降水量、季節日照時間の 3 位まで)

季節平均気温 高い方からの極値・順位更新

季節	順位	地点名	平均気温 ()	これまでの最高 ()	統計開始年	平年値 ()
冬	1 位	八 戸	1.6	1.6 (1973 年)	1938 年	-0.1
	2 位	青 森	1.2	1.4 (1949 年)	1887 年	-0.4
		深 浦	2.3	2.7 (1949 年)	1941 年	0.6
		秋 田	2.4	2.8 (1949 年)	1887 年	1.0
		新 庄	0.9	1.2 (1993 年)	1986 年	-0.3
	3 位	む つ	1.0	1.5 (1949 年)	1936 年	-0.6
		酒 田	3.9	4.2 (1949 年)	1938 年	2.4
春	3 位	福 島	11.9	12.8 (1998 年)	1928 年	10.9
		白 河	10.5	11.4 (1998 年)	1940 年	9.4
秋	2 位	八 戸	14.2	14.3 (1990 年)	1937 年	12.7
		秋 田	15.4	15.5 (1990 年)	1886 年	13.7
		盛 岡	13.3	13.6 (1990 年)	1924 年	11.9
		山 形	15.1*	15.3 (1990 年)	1891 年	13.4
		新 庄	14.3	14.4 (1990 年)	1986 年	12.5
		酒 田	16.5	16.7 (1990 年)	1937 年	14.7
	3 位	青 森	14.3	14.7 (1990 年)	1886 年	12.6
		深 浦	14.6	14.8 (1961 年)	1940 年	13.3
		む つ	13.3	13.8 (1990 年)	1935 年	12.1
		若 松	14.9*	15.3 (1990 年)	1953 年	13.4

順位の更新はタイ記録も含んでおり、タイ記録は「*」で表す。

季節降水量 多い方からの極値・順位更新

季節	順位	地点名	降水量 (mm)	これまでの最大 (mm)	統計開始年	平年値 (mm)
春	1 位	酒 田	505.5	467.0 (1963 年)	1937 年	325.8
	3 位	白 河	356.5	403.5 (1995 年)	1994 年	291.6
夏	3 位	新 庄	663.0	840.5 (1998 年)	1986 年	491.1
秋	1 位	白 河	757.5	511.5 (2000 年)	1994 年	392.9
	2 位	若 松	503.0	510.9 (1958 年)	1953 年	284.8

季節日照時間 多い方からの極値・順位更新

季節	順位	地点名	日照時間 (h)	これまでの最大 (h)	統計開始年	平年値 (h)
夏	2 位	仙 台	571.6	626.9 (1978 年)	1927 年	411.0
	3 位	新 庄	531.7	582.2 (1994 年)	1986 年	484.7

季節日照時間 少ない方からの極値・順位更新

季節	順位	地点名	日照時間 (h)	これまでの最大 (h)	統計開始年	平年値 (h)
秋	1 位	盛 岡	312.9	316.5 (1991 年)	1924 年	391.4
	3 位	八 戸	362.4	318.1 (1955 年)	1937 年	443.7
		大船渡	336.5	318.6 (1991 年)	1963 年	405.6

7. 月の極値・順位更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間、月最深積雪の3位まで)

月平均気温 高い方からの極値・順位更新

月	順位	地点名	気温 ()	これまでの最高 ()	統計開始年	平年値 ()
2月	2位	八戸	1.4	2.0 (1990年)	1937年	-0.9
5月	2位	新庄	15.4	15.9 (1998年)	1986年	14.2
	3位	酒田	16.6	17.0 (1998年)	1937年	14.9
6月	2位	むつ	17.7	18.2 (1991年)	1935年	15.6
	3位	青森	19.0	19.8 (1991年)	1886年	17.0
		新庄	19.6	20.5 (1991年)	1986年	18.7
		福島	22.1	22.9 (1979年)	1928年	19.9
7月	3位	新庄	23.8	24.6 (1994年)	1986年	22.3
11月	1位	青森	9.8	9.6 (1990年)	1886年	6.4
		深浦	10.6	10.0 (1990年)	1940年	7.5
		むつ	9.0	9.0 (1990年)	1935年	6.3
		八戸	10.0	9.3 (1990年)	1937年	6.6
		秋田	10.9	10.2 (1990年)	1886年	7.6
		盛岡	8.8	8.0 (1990年)	1923年	5.7
		大船渡	10.7	10.6 (1990年)	1963年	8.2
		宮古	10.1	10.0 (1990年)	1884年	7.7
		仙台	11.8	11.5 (1990年)	1926年	9.1
		石巻	11.3	10.9 (1990年)	1887年	8.3
		山形	10.3	9.7 (1990年)	1891年	7.2
		新庄	9.5	8.8 (1990年)	1985年	6.2
		酒田	12.2	11.5 (1990年)	1937年	9.0
		福島	11.6	11.3 (1990年)	1928年	9.0
		白河	10.1	10.0 (1990年)	1940年	7.6
	2位	若松	9.7	9.8 (1990年)	1953年	7.0
		小名浜	13.3	13.4 (1990年)	1910年	10.8

月降水量 多い方からの極値・順位更新

月	順位	地点名	降水量 (mm)	これまでの最大 (mm)	統計開始年	平年値 (mm)
2月	2位	白河	48.5)	50.0 (1998年)	1994年	41.4
5月	1位	酒田	281.5	276.0 (1998年)	1937年	116.8
		若松	154.5	148.1 (1955年)	1954年	80.5
	2位	深浦	222.0	249.5 (1955年)	1940年	108.8
		白河	187.0	191.0 (1997年)	1994年	120.0
	3位	秋田	233.5	259.5 (1955年)	1886年	122.8
		新庄	155.0	181.0 (1992年)	1986年	106.6
7月	2位	新庄	373.0	423.0 (1991年)	1986年	185.6
9月	3位	青森	271.5	388.9 (1958年)	1886年	119.8
10月	1位	福島	407.5	403.0 (1991年)	1890年	95.3
		若松	280.5	259.0 (2002年)	1953年	77.6
		白河	526.0	204.0 (2002年)	1994年	111.9
	2位	仙台	293.5	347.0 (1991年)	1926年	99.2
		石巻	288.0	394.5 (1991年)	1887年	104.1
		山形	237.0	280.5 (1991年)	1891年	76.0
		小名浜	440.5	453.5 (1991年)	1910年	153.1

月降水量 少ない方からの極値・順位更新

月	順位	地点名	降水量 (mm)	これまでの最小 (mm)	統計開始年	平年値 (mm)
1 月	2 位	白 河	19.0	9.5 (1999 年)	1995 年	30.6
3 月	1 位	大船渡	28.5	28.9 (1965 年)	1964 年	91.8
		仙 台	12.5	14.0 (1976 年)	1927 年	73.0
		山 形	17.0	25.5 (1905 年)	1891 年	66.5
		福 島	13.0	13.5 (1976 年)	1890 年	76.9
	2 位	若 松	23.5	22.5 (1976 年)	1954 年	63.9
		白 河	54.0	49.5 (1998 年)	1994 年	71.1
	3 位	新 庄	67.5	61.5 (1991 年)	1986 年	112.1
8 月	1 位	白 河	104.5	116.5 (1996 年)	1994 年	228.2
9 月	1 位	白 河	143.5	148.5 (2003 年)	1994 年	215.9
10 月	2 位	深 浦	53.0	21.5 (1977 年)	1940 年	165.6
	3 位	青 森	44.0	26.0 (1977 年)	1940 年	106.0
11 月	2 位	新 庄	135.5	64.5 (1994 年)	1985 年	195.4

月間日照時間 多い方からの極値・順位更新

月	順位	地点名	日照時間 (h)	これまでの最大 (h)	統計開始年	平年値 (h)
1 月	3 位	新 庄	52.1	67.4 (1989 年)	1986 年	43.1
2 月	1 位	小名浜	213.9	210.0 (1938 年)	1911 年	175.0
3 月	2 位	新 庄	130.1	142.0 (1997 年)	1986 年	117.2
4 月	3 位	仙 台	231.2	245.7 (1987 年)	1927 年	190.9

月間日照時間 少ない方からの極値・順位更新

月	順位	地点名	日照時間 (h)	これまでの最小 (h)	統計開始年	平年値 (h)
5 月	1 位	大船渡	132.1	149.0 (1995 年)	1964 年	196.3
		新 庄	132.6	145.6 (1997 年)	1986 年	180.1
	2 位	盛 岡	147.7	128.9 (1955 年)	1924 年	194.9
		仙 台	131.7	123.2 (1929 年)	1927 年	198.7
		石 巻	139.1	132.5 (1920 年)	1899 年	206.5
		山 形	135.4	95.2 (1920 年)	1895 年	201.9
		小名浜	135.5	130.3 (1945 年)	1910 年	198.4
	3 位	若 松	154.3	140.5 (1992 年)	1954 年	197.9

月最深積雪 大きい方からの極値・順位更新

月	順位	地点名	最深積雪 (cm)	これまでの最深 (cm)	統計開始年	平年値 (cm)
1 月	1 位	む つ	65	59 (2001 年)	1999 年	47
3 月	3 位	盛 岡	80	101 (1984 年)	1953 年	35
4 月	1 位	む つ	24	5 (1999 年)	1998 年	6

8 . 2004 年の東北地方の梅雨入り・梅雨明けの時期

梅雨入りの時期は、東南北部は平年より早い6月7日頃、東北北部は平年より遅い6月19日頃だった（東南北部では平年より3日早く、東北北部では平年より7日遅い）。

梅雨明けの時期は、東南北部は平年並の7月22日頃、東北北部は平年より早い7月22日頃だった（東南北部では平年より1日早く、東北北部では平年より5日早い）。

東南北部は、6月7日頃の梅雨入り後、天気のぐずつく時期もあったが梅雨前線の活動は不活発で、高気圧に覆われて晴れて暑い日が多かった。東北北部は、6月19日頃の梅雨入り後、梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。ただし、昨年冷夏をもたらしたオホーツク海高気圧はほとんど現れなかった。梅雨明けは東南北部、東北北部共に7月22日頃だったが、梅雨末期には平成16年7月新潟・福島豪雨等各地で集中豪雨となり、大きな被害が発生した。

なお、太平洋高気圧は平年に比べて北への張り出しは強かったが、西への張り出しは弱く、台風は太平洋高気圧の縁に沿って進み、6月には台風第4号、第6号が日本へ上陸した。

地 域	梅 雨 入 り			梅 雨 明 け			代表的な地点の梅雨の時期 の降水量 かつこ内は平年値
	今 年	階級	平 年	今 年	階級	平 年	
沖 縄	5月5日頃	-	5月8日頃	6月23日頃	0	6月23日頃	那 覇 494.5mm (386.2mm)
奄 美	5月14日頃	+	5月10日頃	6月24日頃	-	6月28日頃	名 瀬 592.0mm (493.3mm)
九州南部	5月29日頃	0	5月29日頃	7月11日頃	0	7月13日頃	鹿児島 334.5mm (585.4mm)
九州北部	5月29日頃	- *	6月5日頃	7月11日頃	-	7月18日頃	福 岡 310.5mm (387.9mm)
四 国	5月29日頃	- *	6月4日頃	7月13日頃	-	7月17日頃	高 松 252.5mm (237.8mm)
中 国	5月29日頃	- *	6月6日頃	7月13日頃	-	7月20日頃	広 島 301.0mm (389.2mm)
近 畿	6月6日頃	0	6月6日頃	7月13日頃	-	7月19日頃	大 阪 158.0mm (266.5mm)
東 海	6月6日頃	-	6月8日頃	7月13日頃	-	7月20日頃	名古屋 204.5mm (282.2mm)
関東甲信	6月6日頃	-	6月8日頃	7月13日頃	-	7月20日頃	東 京 101.5mm (227.1mm)
北 陸	6月6日頃	-	6月10日頃	7月22日頃	0	7月22日頃	新 潟 305.5mm (258.0mm)
東南北部	6月7日頃	-	6月10日頃	7月22日頃	0	7月23日頃	仙 台 287.0mm (242.6mm)
							山 形 316.0mm (193.6mm)
							福 島 245.0mm (209.4mm)
東北北部	6月19日頃	+	6月12日頃	7月22日頃	-	7月27日頃	青 森 125.5mm (103.2mm)
							盛 岡 314.0mm (170.0mm)
							秋 田 255.5mm (196.5mm)

梅雨は季節現象であり、その入り・明けは平均的に5日間程度の「移り変わり」の期間がある。このため、時期の表現は「移り変わり」の期間の概ね中日をもって「**日頃」としている。

階級記号の意味は、+*：かなり遅い、+：遅い、0：平年並、-：早い、-*：かなり早い階級区分を表す。

参考として、各地域の代表的な地点の入りの遷移期間のおおむね中日から明けの遷移期間のおおむね中日の前日までの降水量の合計値を示す。括弧内には、同期間の日別平滑平年値の合計値を示す。

9 . 2004 年に日本に上陸した台風

台風の年間発生数の平年は 26.7 個、昨年の発生数は 21 個だったが、今年は 4 月 5 日に第 1 号が発生して以来 12 月 19 日現在までにほぼ平年並の 29 個発生した。しかし、年間上陸数の平年は 2.6 個だが、今年の上陸数は 10 個に達し、統計を開始した 1951 年以降の記録であった 1990 年(平成 2 年)と 1993 年(平成 5 年)の 6 個を大幅に更新した。また、台風が強い勢力のまま日本に上陸・接近したことで、日本全国に大雨や暴風による大きな被害をもたらした。

多くの台風が日本に上陸・接近したのは、6 月から 10 月までの長い期間、台風が日本に接近しやすいような太平洋高気圧の配置が続き、この高気圧の縁を回って次々と日本に向け移動してきたためと考えられる。特に、6 月と 10 月は太平洋高気圧が平年に比べて北に張り出し、台風は転向後に平年の典型的な経路より北を通り日本に上陸した。また、6 月はフィリピン東海上を中心とした台風発生域の対流活動が活発で、台風の発生数が多かったことも原因の一つと考えられる。このため、月別の上陸数は 6 月に第 4、6 号の 2 個、10 月に第 22、23 号の 2 個と、どちらもその月のタイ記録となった。

上陸・接近した台風の勢力が強かったのは、日本周辺の海面水温が平年に比べて高く、台風が日本付近まで北上した後も勢力が衰えなかったためと考えられる。

6 月 7 日に発生した台風第 4 号は、11 日に四国に上陸後温帯低気圧となった。

6 月 13 日に発生した台風第 6 号は、21 日に四国に上陸後日本海を北上し、東北地方は暴風や大雨となる所があった。

7 月 25 日に発生した台風第 10 号は、31 日に四国に上陸後日本海で熱帯低気圧となった。

8 月 4 日に発生した台風第 11 号は、4 日に四国に上陸後日本海で熱帯低気圧となり、東北北部を通過したため大雨となった。

8 月 16 日に発生した台風第 15 号は、日本海を北東に進んで青森県に上陸したため、東北北部を中心に記録的な暴風となり大きな被害が発生した。

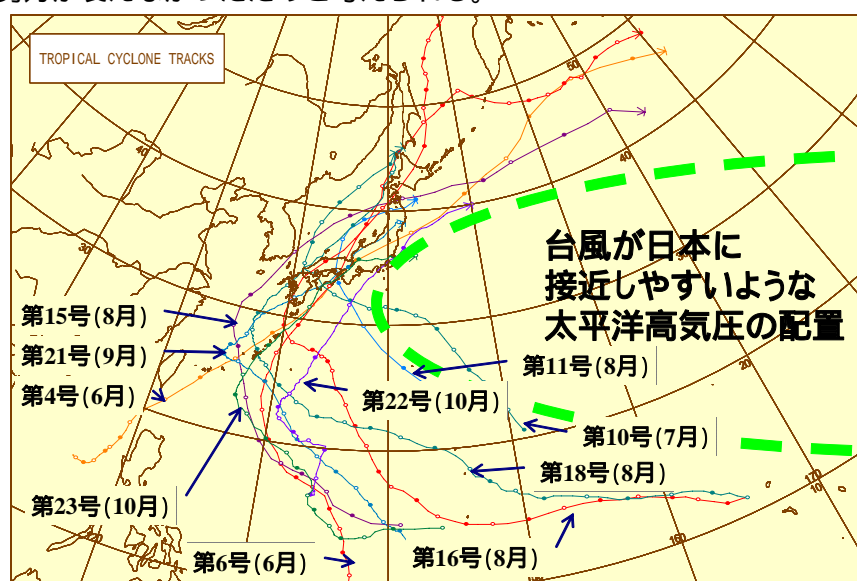
8 月 19 日に発生した台風第 16 号は、30 日に九州に上陸後、中国地方から日本海に抜け、速度を速めて東北北部に接近した。このため、記録的な暴風や大雨となり大きな被害が発生した。

8 月 28 日に発生した台風第 18 号は、9 月 5 日に大型の非常に強い勢力で沖縄本島を通過し、7 日に九州北部を横断した。その後も日本海を加速しながら北東に進み、暴風域を伴ったまま 8 日に北海道の西海上に達した。このため、東北地方は暴風により農作物等に大きな被害が発生した。

9 月 21 日に発生した台風第 21 号は、29 日に暴風域を伴って鹿児島県に上陸後、北陸、東北地方を通過して 30 日に三陸沖で温帯低気圧となった。このため、東北地方は大雨や強風となった。

10 月 4 日に発生した台風第 22 号は、9 日に伊豆半島に強い勢力で上陸し、関東地方を通過して夜には鹿島灘に進んだ。このため、東北太平洋側の南部中心に大雨となった。

10 月 13 日に発生した台風第 23 号は、20 日に大型の強い勢力で四国に上陸後、西日本から東日本を横断して 21 日には関東の東海上で温帯低気圧となった。このため、東北南部は大雨となった。



今年と平年の月別の台風発生数と上陸数(2004年12月19日現在)

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
発生数	今年	0	0	0	1	2	5	2	8	3	3	3	2	29
	平年	0.5	0.1	0.4	0.8	1.0	1.7	4.1	5.5	5.1	3.9	2.5	1.3	26.7
上陸数	今年	0	0	0	0	0	2	1	3	2	2	0	0	10
	平年	-	-	-	-	-	0.2	0.5	0.9	0.9	0.1	0.0	-	2.6

10. 真冬日と真夏日の日数

真冬日（日最高気温が0 未満の日）の日数

	12月		1月		2月		冬合計	
	日数	平年	日数	平年	日数	平年	日数	平年
青森	1	3.8	2	10.0	3	7.7	6	21.3
深浦	0	2.2	0	9.2	1	7.6	1	19.0
むつ	1	3.4	2	10.1	2)	8.0	5)	21.4
八戸	0	2.0	1	6.8	0	5.3	1	14.0
秋田	0	1.0	0	6.0	0	5.0	0	12.0
盛岡	0	2.2	4	8.2	2	5.3	6	15.6
大船渡	0	0.5	1	2.5	0	1.7	1	4.6
宮古	0	0.1	1	1.3	0	1.2	1	2.7
仙台	0	0.1	0	1.1	0	0.9	0	2.1
石巻	0	0.3	0	2.1	0	1.6	0	4.0
山形	0	1.1	3	5.6	1	3.9	4	10.7
酒田	0	2.3	3	9.0	1	6.9	4	18.1
新庄	0	0.2	0)	2.5	0	2.0	0)	4.6
福島	0	0.1	0	1.3	0	1.1	0	2.4
若松	0	0.9	3	5.6	1	3.9	4	10.4
白河	0	0.3	1	2.4	0)	1.8	1)	4.6
小名浜	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

真夏日（日最高気温 30 以上）の日数と今夏の最高気温

	6月			7月			8月			夏			今夏の最高気温 () (起日)
	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	
青森	0	1	0.4	0	7	3.9	2	8	7.6	2	16	11.9	34.8 7月25日
深浦	0	0	0.0	0	4	1.4	0	6	3.9	0	10	5.2	35.0 7月31日
むつ	0	0	0.1	0	6	2.1	0	3	4.0	0	9	6.2	32.6 7月31日
八戸	0	0	0.6	0	10	5.2	2	8	7.4	2	18	13.2	35.9 7月31日
秋田	1	1	0.2	0	8	4.9	4	10	9.7	5	19	14.8	36.4 7月31日
盛岡	1	1	0.8	0	13	6.5	3	9	10.1	4	23	17.4	34.4 7月25日
大船渡	1	2	0.4	0	7	3.4	3	6	5.7	4	15	9.6	33.8 7月9日
宮古	3	0	0.6	0	12	4.4	3	7	6.8	6	19	11.7	34.4 7月30日
山形	4	6	2.4	0	20	11.7	12	16	17.5	16	42	31.6	35.8 7月31日
酒田	1	2	0.5	0	12	6.5	6	11	12.6	7	25	19.6	36.9 7月31日
新庄	0	0	1.1	0	14	7.9	5	14	13.0	5	28	22.0	34.2 7月31日
仙台	2	2	0.4	1	11	5.1	3	14	9.9	6	27	15.4	34.0 8月13日
石巻	1	1	0.1	0	3	2.3	4	5	4.8	5	9	7.2	32.0 8月12日
福島	5	11	3.4	2	21	13.3	15	22	18.1	22	54	34.9	36.3 7月7日
若松	4	9	2.2	4	17	12.1	14	16	18.4	22	42	32.7	35.1 8月19日
白河	1	1)	0.6	1	14	6.8	10	13	10.7	12	28	18.2	34.2 7月7日
小名浜	2	1	0.3	0	3	1.9	1	6	3.8	3	10	6.0	34.6 8月20日

注) 括弧付きの値は、欠測を含む値であることを示す。

11. 2004 年の季節現象

桜の開花・満開

官署名	開花日					満開日				
	本年	平年	昨年	最早記録 (起年)	最晩記録 (起年)	本年	平年	昨年	最早記録 (起年)	最晩記録 (起年)
青 森	4.18	4.26	4.20	4.14(2002)	5.11(1984)	4.21	5.01	4.27	4.16(2002)	5.18(1984)
八 戸	4.16	4.24	4.22	4.12(1990)	5.18(1984)	4.19	4.28	4.25	4.16(2002)	5.23(1984)
秋 田	4.12	4.19	4.16	4.07(2002)	4.30(1984)	4.16	4.24	4.21	4.12(2002)	5.08(1965)
盛 岡	4.13	4.23	4.16	4.11(2002)	5.06(1984)	4.17	4.27	4.21	4.16(2002)	5.09(1984)
宮 古	4.10	4.20	4.17	4.08(2002)	5.07(1984)	4.14	4.25	4.19	4.13(2002)	5.19(1984)
仙 台	4.07	4.12	4.09	3.29(2002)	4.28(1984)	4.10	4.18	4.14	4.03(2002)	5.03(1984)
山 形	4.10	4.17	4.14	4.03(2002)	4.29(1984)	4.13	4.21	4.17	4.06(2002)	5.04(1984)
酒 田	4.09	4.16	4.12	4.04(2002)	4.27(1984)	4.12	4.20	4.16	4.08(2002)	5.02(1965)
福 島	4.03	4.11	4.08	3.29(2002)	4.25(1984)	4.08	4.15	4.12	4.02(2002)	4.28(1984)
小名浜	4.01	4.08	4.08	3.25(2002)	4.25(1984)	4.08	4.14	4.13	4.01(2002)	4.29(1984)

開花：標本木が5～6輪開花した状態

満開：標本木全体のつばみの80%以上が開花した状態

寒候期現象の初日

官署名	初霜			初氷			初雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青 森	11.08	10.23	11.11	11.16	10.29	11.11	10.27	11. 7	11.22
八 戸	11.08	10.27	11.11	11.29	11. 2	11.14	11.29	11.11	11.22
秋 田	12.09	11. 6	10.27	12.09	11.13	11.24	11.28	11.12	11.22
盛 岡	10.28	10.18	10.27	10.28	10.24	10.27	11.16	11. 8	11.22
大船渡	10.28	11. 5	10.27	10.28	11.11	11.23	12.17	11.18	11.22
宮 古	10.28	10.31	10.27	10.28	11. 5	11.15	12.15	11.16	11.22
仙 台	12.03	11. 6	11.15	12.03	11.16	11.24	12.17	11.22	12. 7
山 形	10.28	10.24	10.27	10.28	10.29	10.27	12.16	11.16	11.23
酒 田	12.09	11.12	11.19		11.20	11.24	12.16	11.17	11.22
福 島	10.29	11. 6	11.15	11.30	11.11	11.15	11.30	11.24	12. 4
若 松	10.29	10.28	11. 5	11.24	11. 6	11.18	11.30	11.17	11.22
小名浜	12.03	11.11	12. 8	12.03	11.19	12.17		12.13	12.20

初冠雪

山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
八甲田山	1584	10.23	10.16	10. 5	朝日岳	1870	10.28	10.19	10.17
岩木山	1625	10.28	10.15	10. 5	雁戸山	1485	10.28	10.28	10.24
階上岳	740	12.06	11.12	12. 4	滝 山	1362	10.27	10.30	10.24
太平山	1170	10.27	10.31	11.23	泉ヶ岳	1175	10.27	11. 6	11.17
岩手山	2038	10.27	10.13	10. 5	蔵王山	1841	10.27	10.23	10.24
五葉山	1351	12.06	11. 7	11.23	吾妻山	1949	10.27	10.21	10.24
鳥海山	2236	10.17	10. 9	10. 5	飯豊山	2105	10.16	10.17	10. 4
月 山	1984	10.18	10.15	10.17	磐梯山	1819	10.27	10.24	10.24

注：蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。

1 2 . 東北地方の年平均気温の平年差の推移

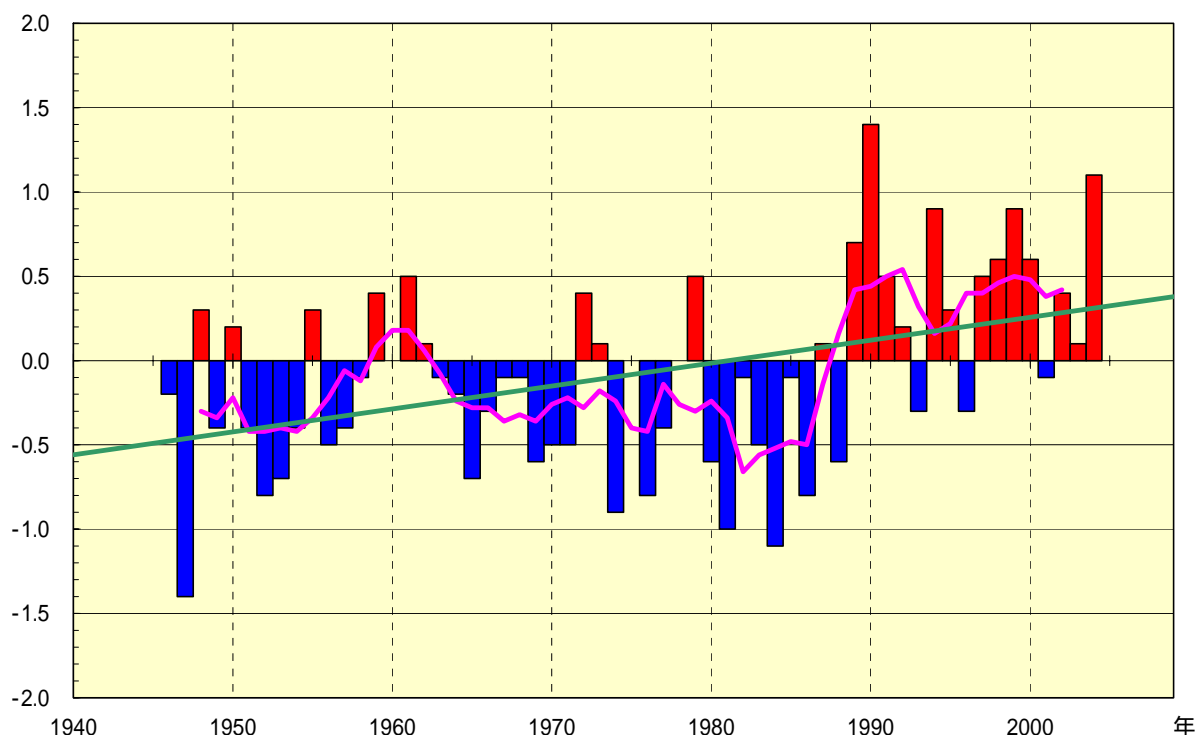
2004 年の東北地方は、8 月のように低温となる時期もあったが、年を通して寒気の南下は弱く、高温傾向が続いた。特に、11 月は東北各地で記録的な高温となった。このため、東北地方の年平均気温の平年差は +1.1（2004 年 1 月 1 日から 12 月 19 日までの暫定値）と、1946 年の地域平均統計開始以降で 1990 年に次ぐ記録的な高温となる見込みである。

これは、地球温暖化や都市化による経年的な気温上昇と、1998 年以降北半球対流圏の平均的な気温が高いこと（夏に一時低下した時期もあったが概ね高温傾向）により、近年の気温ベースが高温側に偏っていることが背景にある。

これに加えて、昨年の夏のように低温をもたらすオホーツク海高気圧がほとんど出現せず、初夏から秋にかけて太平洋高気圧の強い状況が持続し、暑夏、残暑となったことや、11 月から 12 月にかけて極の寒気が南下しにくい気圧配置が続いたこと等により、東北地方は記録的な高温になったと考えられる。

東北地方の 1946 年からの年平均気温の平年差の経年変化をみると、年々の変動はあるものの、長期的にみて気温は上昇している。また、この傾向の中にも相対的に気温の低い時期と高い時期が繰り返されており、1980 年代終わりから高温が現れやすい状態が続いている。

図中の直線で表される年平均気温の数十年～百年規模での増加の要因としては、二酸化炭素等温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化が考えられる。また、図中の折れ線で表される 5 年移動平均の変動には、長期的な変化に加えて、海面水温の変動等にみられる年～数十年程度の時間規模の自然変動が関わっていることが考えられる。



東北地方の年平均気温の平年差の経年変化（1946～2004 年、2004 年は暫定値）
棒グラフは各年の値。折れ線は各年の値の 5 年移動平均。直線は各年の値の近似直線。

1 3 . 2004 年の天候情報の発表状況

平成 16 年 4 月 22 日 13 時 30 分	低温に関する東北地方気象情報	第 1 号
平成 16 年 7 月 29 日 10 時 10 分	高温に関する東北地方気象情報	第 1 号
平成 16 年 8 月 2 日 10 時 10 分	高温に関する東北地方気象情報	第 2 号
平成 16 年 8 月 6 日 11 時 05 分	高温と少雨に関する東北地方気象情報	第 3 号